積雪地帯における露地ホウレンソウの晩秋播(は)種・越冬早春穫り作型

兵庫県北部地域の冬季は、降雪、寡日照や低温など、露地の野菜生産には不適な気象条件である。そこで、耐寒性のあるホウレンソウを晩秋に播種し、積雪下で越冬させて早春に収穫する作型を検討した結果、早春播種に比べ収穫期が1か月以上早くなり早期出荷が可能となる。

内　容

県北部地域の冬季は、低温で降雪があり、露地野菜の栽培は困難である。そこで、低温に強いホウレンソウの特性を生かした晩秋播種・積雪下越冬・早春収穫作型を検討した。

試験は2018年秋から2019年春に北部農業技術センターで実施した。「クロノス」及び「新日本」を晩秋播種として11月1日及び20日に、早春播種を2月26日に行った。

降雪前12月27日の草丈は、11月1日播種で「クロノス」8.9cm、「新日本」13.4cm、葉数「クロノス」6.9枚、「新日本」7.1枚となった。11月20日播種は、それぞれ「クロノス」3.5cm、1.7枚、「新日本」4.5cm、1.8枚であった。なお、栽培期間中の最深積雪深は12月下旬の40cm、最低気温は1月10日の－4.1℃であった。

春の収穫調査の結果、草丈から見た収穫適期は、11月1日播種で3月中旬、11月20日播種で4月上旬となり、草丈は両品種とも30cm以上、葉数10～14枚であった。早春播種の収穫期が4月下旬であることから、30日以上早く収穫可能である。株重は両品種ともいずれの播種日でも70～80g台となり、40g台である早春播種に比べ収量性に優る。葉色も両品種及び両播種期においても大きな差異は無かった（表）。

以上の結果、本作型は早春播種に比べ11月播種で収穫時期が1か月以上早くなる。また、早春播種と組み合わせれば3月中旬から4月下旬まで連続した生産が可能になる。

写真　「クロノス」（11月1日播種、1月30日撮影）

普及上の注意事項

本作型の播種期は、11月上旬から中旬であると考えられ、降雪前に本葉数枚程度まで生育させ越冬させる。

福嶋　昭（北部　農業・加工流通部）
（問い合わせ先　電話：079－674－1230）

表　ホウレンソウの晩秋播種、越冬作型における収穫時の生育

品種名	播種-収穫日 月／日	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎径 (cm)	葉色 (SPAD値)	重量 (g/株)
クロノス	11/1-3/18	30.8	13.5	2.8	55.1	84.2
	11/20-4/2	30.9	10.6	1.9	52.0	72.4
	2/26-4/25	31.1	13.1	1.9	48.5	44.1
新日本	11/1-3/18	34.2	14.3	2.5	40.0	70.4
	11/20-4/2	33.7	12.9	1.6	37.9	86.8
	2/26-4/25	32.7	14.2	1.7	35.0	41.5